

〔ピラミッドからの話題〕

## GGP 農場で農場 HACCP を構築中

櫻 井 忠

(日本農産工業(株)畜産技術センター)

All about SWINE 56, 31

農場 HACCP 認証を取得する農場が年々増加している。令和元年 11 月までに認証取得した農場の畜種の半数近くは養豚で、養豚場が積極的に農場 HACCP 構築に取り組んでいることが伺える。農場 HACCP 認証農場リストには SPF 豚農場の認定農場も見受けられる。このような背景もあり、更なる農場のレベルアップを目指して日本農産工業ピラミッドでも遅ればせながら (?), 農場 HACCP 普及に積極的な製薬会社の御協力下で一昨年より GGP 農場が農場 HACCP 構築に取り組んでいる。

筆者はこの GGP 農場の管理獣医師として関わっており、農場 HACCP 構築会議 (HACCP 研究会) に参加し、農場スタッフと共に農場 HACCP を学んでいるところである。養豚場の飼育管理、衛生管理は多岐にわたるため、今後の農場 HACCP 認証取得に向けた農場スタッフの資料作成作業では大きな労力と困難が待っているかもしれない。今後は管理獣医師としてだけでなく、農場 HACCP 導入のサポート、農場 HACCP スタッフの教育訓練、外部検証などの役割が求められることであろう。

食品として養豚場が生産した豚肉の危害 (CCP) は、注射針の残留、抗菌剤を始めとする薬品の残

留、人に食中毒を起こすサルモネラ汚染などに代表される。これらの危害防止によって豚肉の安全性を高めることが農場 HACCP の目的であり、農場にとってのメリットになる。種豚生産を主体とする GGP 農場、GP 農場でも HACCP 認証取得と同様のメリットが得られるが、飼養衛生管理基準の高いレベルでの遵守による家畜伝染病の侵入防止も重要である、すなわち、疾病のない種豚を生産し、その供給を維持することも命題であり、農場にとってのメリットになる。

国内では CSF (豚コレラ) の発生が関東地区に及び、さらに想定外に沖縄県でも発生した。CSF 対策として要望が強かった CSF ワクチン接種もようやく開始されたが、CSF 発生では飼養衛生管理基準のあり方や遵守について問題提起されたことは記憶に新しい。ASF (アフリカ豚コレラ) の国内侵入防止も危惧される情勢下で、SPF 豚農場は認定基準や飼養衛生管理基準への対応だけでなく、農場 HACCP 認証制度も取り入れていくことは豚肉の安全性維持、高い防疫レベルの構築と疾病予防、生産性向上などの成果につながるはずである。農場 HACCP は今後の養豚業界で生き残る方策のひとつかもしれない。